

RPPCメール

リサイクルポート推進協議会

第612号（平成28年2月3日発行）

【今週号の主な内容】

■ 《今週の報道発表》

今週の報道発表はございません

■ 《RPPC事務局からのお知らせ》

1. 汚染土壌事業化PT 次回WG開催のお知らせ

■ 《リサイクルポートに関連する最新の情報》

1. 重要港湾管理者など主幹課長会議、主要試作の動向など報告
2. 細島港長期構想検討委員会開催、年度内に港湾計画改訂へ
3. 中部地整、港湾工事に破砕瓦を

《RPPC事務局からのお知らせ》

1. 汚染土壌事業化PTの次回WGの開催について

下記日時にて開催予定となっておりますのでご確認ください。

記

日時：平成28年2月4日（木）

13:00～15:00 WG②

（1/28開催予定からの変更分）

場所：みなと総研 3階 会議室

日時：平成28年2月25日（木）

13:00～14:00 WG⑥

14:00～15:00 WG①

場所：みなと総研 3階 会議室

（WG③④については未定）

【事務局】

=====

《リサイクルポートに関連する最新の情報》

1. 重要港湾管理者など主幹課長会議、主要試作の動向など報告

国土交通省港湾局は1月26日、省内で平成27年度第2回「重要港湾管理者等主幹課長会議」を開催した。菊地港湾局長が港湾行政を取り巻く現況や重要施策について考えを示した後、港湾局担当各課から港湾整備・海岸整備関係の28年度予算案や主要な取組みについて説明があった。

会議の冒頭挨拶した菊地港湾局長は、28年度予算案について、前年度以上を確保できたことに触れたほか、国際コンテナ戦略港湾政策について、「1月12日に（京浜港の港湾運営会社と

なる) 横浜川崎国際港湾会社が設立され、コンテナ戦略港湾政策が大きく前進し、両港でオールジャパンの体制が構築されたものと思っている。国策として国際フィーダーを用いた集貨等をしっかりと進めていくことが重要」と述べ、各地域から京浜港、阪神港への国際フィーダー網が充実することを目指し、全国の港湾管理者には引き続き協力してほしいと語った。

また「国際バルク戦略港湾、地域の基幹産業を支える港湾に関する取組みもしっかりと進めていく。ユーザーから寄せられる期待は大きいものと感じており、港湾管理者と一緒に進んでいく期待に応えていきたい」と述べた。

このほか安全安心の観点として「南海トラフ、首都直下地震をはじめとした地震・津波対策が重要となる。港湾管理者等からの要望の中でも災害対応、防災対策に対する要請は大きい」との認識を示し、予算は厳しい状況であるが直轄事業、交付金事業等で、計画的に対応していきたいと話した。

また老朽化対策については「高度経済成長期に集中的に整備した施設が耐用年数を迎え、様々な問題点が出てきている。計画的に維持管理を進めることが重要。ただ昨年あたりから対応しきれないものが見受けられるようになってきており、今年に入ってから離島向けのフェリー桟橋に繋がる臨港道路が沈下し使用不能となり、生活の足に重大な影響を及ぼす事案も発生している」と指摘。各港湾管理者に今一度、管理している施設の劣化進行度の点検等を徹底してもらい、事前防止に務めてほしいと語るとともに、国交省では技術的な支援などを行い、しっかりとサポートしていきたいと伝えた。

一方、クルーズ関連として、「クルーズは昨年飛躍の年となった。クルーズ船で入港する外国人旅客数 100 万人という目標を 5 年前倒しで達成することができた。これは、それぞれの港で外航クルーズの受け入れに努力された皆様の賜物。今年は去年以上に大型クルーズ船が来航することが既に発表されており、昨年を上回る旅客数・寄港回数が見込まれている」と発言。外航クルーズの急増に対応するため、27 年度補正予算に関連予算を計上したほか、旅客施設の整備に対する新たな財政支援制度構築に向け、今国会に改正港湾法を提出することを説明し、「インバウンド拡大を地方創生に繋げ、地方の活力に繋げる努力をしていく」と述べた。

このほか港湾法改正について、洋上風力発電の導入を促進するための手続きの創設、民間の NPO 団体など港湾の賑わいづくりに取り組んでいる団体等を支援するための制度創設等も合わせて行うことを紹介し、これら新制度の活用により、各港湾が発展することに期待を寄せた。

【港湾空港タイムス】

2. 細島港長期構想検討委員会開催、年度内に港湾計画改訂へ

宮崎県は 1 月 21 日、「第 4 回細島港長期構想検討委員会」を開き、細島港の次期港湾計画について検討した。機能配置の考え方や整備計画等をまとめており、2 月上旬に地方港湾審議会を開催し、同計画について審議する。2 月 29 日に開催予定の国の交通政策審議会港湾分科会上程し、改訂する方針。工業港地区に埋立による用地や水深 15m 岸壁等を新たに位置付ける見込み。

細島港の長期構想については 30 年先を見据え、①背後地域の発展を支える物流・生産の一大拠点、②災害に強く、市民の暮らしや企業活動を支える防災拠点、③豊かな地域資源を活かした県北地域、といった将来像を目指すこととしている。また同目標達成に向け、工業港地区、白浜地区、商業港地区におけるゾーニングと施策の基本的な方向性を提示。

工業港地区では、外貿バルク貨物を輸送する船舶の大型化に対応した大水深岸壁を新たに整備するほか、▽企業活動の場として臨海部の土地利用需要が高まることを受け、新たな空間を位置付ける、▽既存岸壁を改良して耐震強化を図る、▽内貿ユニットロード取扱機能の一部を移転し、内航複合一貫輸送の輸送力強化を図る、こと等を挙げている。

一方、白浜地区では▽14号岸壁（水深13m岸壁）と工業港地区で取り扱われている輸入バルク貨物を17号岸壁に移転・集約する、▽外貿コンテナターミナル基地の機能拡充、▽各地区で取り扱われている木材チップや、木材関連事業所から発生する貨物の集約、に向けた施策を進める。また商業港地区では、▽大型旅客船の寄港により、市民が港を訪れ、港内の歓迎イベント等を通じて観光客と交流が可能な空間を確保する、等といったことを目指す。

この長期構想を受けて策定する次期港湾計画については、目標年次を平成40年代前半とし、機能強化に向けた新たな施設等を位置付ける。

工業港区では大型化するバルク船に対応するため、既存の水深11m岸壁の沖側に水深15m岸壁を位置付けるとともに、同岸壁背後の海域を企業誘致のため、24.5haを埋立造成により確保する。このほか白浜地区では大規模災害時の備えとして、緑地を新たに位置付けるほか、既存岸壁の耐震強化岸壁への変更等を行う。

【港湾空港タイムス】

3. 中部地整、港湾工事に破碎瓦を

中部地方整備局港湾空港部は、地域特産品「三州瓦」をリサイクル材料として港湾工事に活用する検討を進めている。破碎瓦の港湾工事への適用性を検討する有識者委員会を1月中旬に開いており、同委員会の内容を踏まえて今年度内に衣浦港で実証実験を行う予定。

瓦の製造過程で発生する規格外品は破碎されて、瓦材料に還元され、土木資材等として道路工事等で使用されている。中部地整では今回、地産地消の観点から、三州瓦の破碎瓦を港湾工事においても適用することを目指して検討を進めることとし、有識者委員会から助言を得た。

今後、衣浦港に実験施設を設け、岸壁背後の埋め戻しの材料や裏埋材等への適用性を確認することとしている。実験結果等を踏まえ、来年度以降も同取組みを継続していきたい考え。

【港湾空港タイムス】

#####

発行者：RPPC 広報部会

部会長：徳田 英司 新日鐵住金（株）

部会員：山崎 和宣 五洋建設（株）

木村 竜也 東京都

梅木 重光 （株）酒田港リサイクル産業センター

紫牟田 和隆 光和精鉱（株）

新谷 聡 りんかい日産建設（株）

リサイクルポート推進協議会事務局 一般財団法人みなと総合研究財団（内）

担当：本野、井手、榎並 URL：www.rppc.jp E-mail：rppc_jimukyoku@wave.or.jp

※会員主催や会員に関係した催し物（セミナーなど）の情報がありましたらご連絡下さい。

開催案内等の情報をメールマガジンで配信いたします。

※メールマガジンに対する意見、要望がありましたらご連絡下さい。

※メルマガ配信先に変更がある場合は事務局までご連絡下さい。

#####